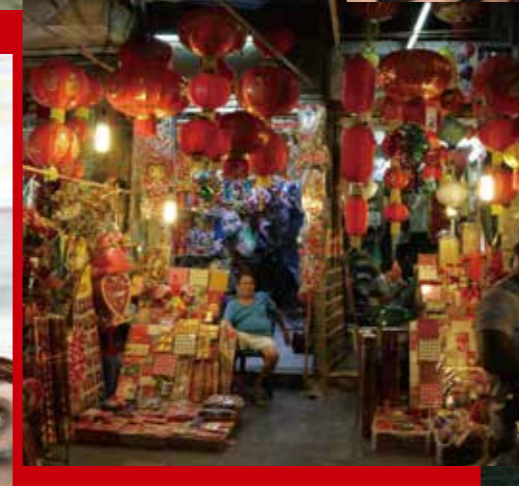




2015年10月発行

# ASEANの 熱い風

- Republic of Indonesia
- Kingdom of Cambodia
- Republic of Singapore
- Kingdom of Thailand
- Republic of the Philippines
- Brunei Darussalam
- Socialist Republic of Vietnam
- Malaysia
- Republic of the Union of Myanmar
- Lao People's Democratic Republic





# 今、ASEANの 国々が熱い



6億人の人口を擁し  
民族や文化も様々

ASEANは、1967年、東南アジアの政治的な安定や経済成長の促進などを目的に設立された。この時の加盟国はインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5か国。その後、84年にブルネイ、95年にベトナム、97年にラオス、ミャンマー、そして99年にカンボジアが加盟し、現在の10か国体制になった。域内の人口は6億人を超える。このスケールは、隣接する中国やインドのように10億人を超える大国には及ばないが、日本や韓国をはるかに上回る。

巨大な連合組織だが、それだけに域内には様々な違いを抱えている。民族や宗教、言葉が違えば、政治体制も文化も様々だ。

さらに経済発展の状況も一様ではない。例えば、1人あたりのGDP（国内総生産）ではシンガポールは5万ドルを超え、4万ドルにも及ばない日本をはるかに上回っている。その一方で、カンボジアやミャンマーのように1000ドルをわずかに超える程度の国もある。

二輪車の“洪水”。

この写真から聞こえてこないか。湧き上がる喧噪とクラクションの音。

ベトナム・ホーチミン市の中心街でにぎやかな帰宅ラッシュが始まった。

今、ASEAN\*（東南アジア諸国連合）の国々で、

かつての日本を思わせる経済の急成長が現実のものとなってきている。

多くの日系企業が進出し、至るところで現地の人々と一緒に汗を流して働く日本人がいる。

華やかな劇場の舞台や、観衆に埋め尽くされたサッカー場で、

現地のファンを魅了する日本人もいる。

その姿とともに、エネルギッシュな熱風吹くアジアの今をレポートする。

文=横田弘幸、写真=須賀大悟

目覚ましい経済発展  
世界の視線が熱い

しかし、この多様な国々も近年の経済発展は著しい。IMF（国際通貨基金）の調査では、ASEAN全体で2012年5.9%、13年5.2%、14年4.6%、15年5.1%（見込み）と、一定の成長率を維持。その結果、とくに都市部での生活水準は急速に向上している。

こうした中、ASEANが2015年末にASEAN共同体を設立する。これは「経済」「政治安全保障」「社会文化」の3共同体によって構成される。中心となるASEAN経済共同体（AEC）では経済面で域内の一層の統合を進めることにしている。

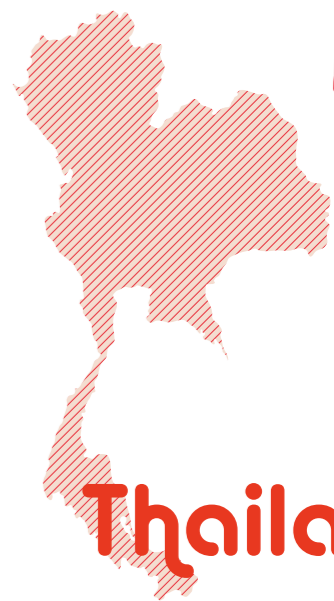
この進展によって、ASEAN以外の国々からの投資が増え、生産拠点としての位置付けが強まるばかりでなく、6億人の巨大消費市場としての飛躍的な発展が期待される。

日本にも身近な国々であるASEAN諸国。この成長のエネルギーに、世界の熱い視線が集まっている。



# 「一風堂」のタイ進出の陰で

## 一人の日本人が奮闘中



Thailand



お昼時には列ができる(2号店)



日本で人気の味がバンコクでも

### 日本のラーメンがブームとなっているタイ 人気の味はバンコクの人々に広がるか？

全員タイ人のスタッフを日本人が率いる

### 「麺

「入りませー」「い  
らっしゃいませー」  
カウンター奥から

絶え間なく上がる太い声。テーブルに運ばれたどんぶりのスープを確かめると、秘伝のスープがきいている。まぎれもない日本のラーメン、「一風堂」の味だ。

海外出店に力を入れている一風堂がここタイ・バンコクに店を開いたのは、1号店(92席)が2014年8月、そして2号店(52席)が2015年1月。

両店合わせて70人のスタッフはすべてタイ人。日本人はタイの責任者、高橋伸年さん(37)1人だ。大学卒業時から海外勤務を希望していた高橋さん。「英語が得意だったので、文化や言葉が異なる所で仕事をし、自分の視野を広げること」とにかく有言実行でやるしかない。

店には日本人客だけでなく、地元客も多い。しかし、ラーメン1杯200バーツ(約670円)という価格は、タイでは相当な高そう。

「タイの店をもっと増やしたいし、タイのお客様にもっと来てほしい」。それを実現するにはどうしたらいいのか。高橋さんの挑戦はこれからが正念場だ。

たいと思っていた」。

ところが、最初に入社した飲食店チェーンの会社は日本国内中心の展開で、思いを果たせなかった。

### 海外勤務の夢 タイで実現

ボジションや待遇に不満はなかったが、思い切って一風堂の運営会社「力の源カンパニー」(福岡市)に転職したのが3年前。国内で店長などを経験し、待ちに待ったタイ勤務の話に迷うことはなかった。

開店から1年。幹部スタッフとは英語でやり取りするが、相手も堪能というわけではない。うまく伝わらないことも。

「語学も大事だが、一番大事なのはこちらが必死でやって見せ



タイの人たちが気軽に立ち寄れる店内



力の源カンパニー「一風堂」タイ担当  
高橋伸年さん



店のスタッフは全員特製の前掛け姿



# ホンダが支える 巨大二輪市場イ



次々と生産されるオートバイは、インドネシアの人々の足となっている

# インドネシア

ジャカルタの郊外にある  
ホンダの工場で生産

## ラ

インを流れるエンジン部品が見る間に組み立てられ、オートバイ本体に取り付けられた。その先では早くもテストのエンジン音が。

驚くほどスピーディに、そして静かに二輪車が生産されている。ジャカルタから車で2時間、ピー・ティー・アストラ・ホンダ・モーター（以下、ホンダ）の工場を訪ねた。日本の本田技研工業と現地企業による合弁企業で、二輪車の年間生産能力は5つの工場で580万台にのぼる。

何しろインドネシアで2014年に販売された二輪車の総数は、ホンダを含め787万台。中国、インドに次ぐ世界第3位の巨大二輪車市場である。

全従業員2万3000人  
うち日本人は23人

同国の二輪車の爆発的な普及ぶりを物語るデータがある。人口を二輪車保有台数で割った数字だ。1995年には21.5人に1台だったものが、20年間で3.3人に1台にまで激増。いわば家族から個人に1台へと急成長しているのだ。自動車には手が出ないが、二輪車ならという階層がどんどん増えている。また、道路事情の悪さも、便利な二輪車の増加に拍車をかけているようだ。そんなケタ違いの巨大マーケットならではの大规模生産体制。ホンダで品質管理を担当する門間優

太さん(32)は「プレッシャーも感じますが、モチベーションにもなりません」と意欲満々だ。問題点が見つければ、速やかに判断を下して対処する。そのオペレーションの速さが信条だ。全従業員2万3000人のうち日本人は23人。赴任して3年半の門間さんは、最初3か月間は先生についてインドネシア語を学んだが、その後は社内でのやり取りで独習。

「同じことを言うのでも、柔らかい言い方も身につけました」というほどの上達ぶりだ。英語に加え、インドネシア語のコミュニケーションの力がある。2015年1月にはインドネシア人女性と結婚。いよいよ気力充実の毎日だ。



インドネシアは世界第3位の巨大二輪車市場

ロボット化の進んだ工場内



工場ではたくさんのインドネシアの人々が働く



現地スタッフとのやり取りは得意のインドネシア語





日本のノウハウを取り入れて生まれた

# ベトナム版「道の駅」



ベトナムを南北に縦断する全長2300キロの国道1号線。中部のクアンナム省ビンアン村で、この幹線道路沿いにベトナム版「道の駅」が開設されている。

2010年に地元の企業が作ったもので、最大の特徴は一度に600人も座って食事ができるレストランだ。なにしろ、多いときには10台ものバスが同時に到着する。食事時には、この乗客らの食欲を満たさなければならない。

使われる野菜類はもちろん地元農家から仕入れている。さらに地元の土産物なども販売し、住民にはここで働くという雇用も生まれた。

「地元の人が喜ぶようにしないと長続きしない」。そんな秘訣を教えてくれたのは、日本の千葉県南房総市の元企画部長、加藤文男さん(65)だ。

加藤さんは同市の道の駅「とみうら枇杷(びわ)倶楽部」を成功させた経験の持ち主。JICA(独立行政法人・国際協力機構)の支援事業の一環で、ビンアンの開設前から現地に足を運び、その経験を伝えてきた。

駅長のホイさんは「日本からの観光客も時折、来てくれる。もっと増えればうれしいんですが」と人懐っこい笑顔を見せた。

加藤さんは「野菜をもっと広範囲に売ってゆきたい」と話す。日本で生まれた道の駅のノウハウがベトナムにどんな花を咲かせるか。大いに楽しみだ。



お土産も豊富に揃えている



バスが到着すると大勢の人で賑わう



ビンアン「道の駅」を支えるホイ駅長(右端)ら



買い物の後、くつろぐベトナム人も多い



ベトナム人のスタッフたちとのコミュニケーションも大切だ

年。市民の足ともいえるバイクの保有台数は388万台(2009年)にのぼる。  
 買い物に来てもらえるのがバイクで15分圏内。1号店の周囲には何と130万人が住み、圧倒的な集客を実現している。  
 2014年11月にはホーチミン市から15キロのビンズオン省にイオンモール2号店がオープンした。  
**1000人のスタッフは全員がベトナム人**  
 1、2号店で働くスタッフは計1000人。全員がベトナム人だ。マネージャークラスとの打ち合わせ

せで青野さんは英語を使うが、現場の従業員とのコミュニケーションの幅を広げるのはベトナム語だと考える。  
 「本などで勉強したベトナム語を披露すると、『そうじゃない』とか、色々教えてくれる。そうやって、次第に覚えてきました。現地スタッフの親近感を持つてくれるし、より深くベトナムの生活を知ることが出来ます」  
 イオン・グループの進めるアジア・シフトの最前線で、青野さんは今、充実したベトナム勤務を実感している。

ベトナム初の郊外型ショッピングセンターは、地元の人たちにとっても馴染みのスポットになった



品ぞろえも豊富な1号店を案内してくれた青野さん

# ベトナムの消費生活

# イオンで変わる

## イオンモールの1、2号店相次ぎ開店

市場での買い物が今でも一般的なベトナム

### ベ

トナム最大の商業都市・ホーチミン市の中心部から西に9キロ。新しい街づくりが進む一角に、2014年1月にイオンモールのベトナム1号店が開店した。3.5ヘクタールの敷地に、どんと構える4階建ての大型施設。ベトナム初の郊外型ショッピングセンターでもある。  
 「この店に行くこと自体がクオリティ。そんな風になれば」と、イオンベトナムの営業部長、青野恵三さん(46)がにこやかに店内を案内してくれた。

「常に一步先を考え、新しいライフスタイルを提案していきたい」  
 確かに今も地元の市民にとって、普段の買い物は市場だ。野菜も魚も衣類も、何でもそろう。その伝統的なショッピングのスタイルを本当に変えられるのか。

### イオンの進出はベトナムの経済成長の証

青野さんには目算がある。経済成長の結果、ベトナムでも年収が約60万円を超える中間所得層の市民が増えてきたのだ。  
 生活レベルが上がれば、必ず商品の衛生管理や品質に関心が移ってくる。それも急速に拡大するはず。同市の人口は782万人(2013)





# ASEANの 経済統合 その目標と現状は



高層ビルが立ち並ぶジャカルタの中心部



日本貿易振興機構 (JETRO)  
アジア経済研究所 研究員

梅崎 創氏  
So Umezaki

ASEANの目指す経済統合とは。そして、日本はそれとどう向き合うべきなのか——。日本貿易振興機構 (JETRO) アジア経済研究所の研究員、梅崎創氏からお話を伺った。梅崎氏は、同研究所新領域研究センターの経済統合研究グループ長を務めている。

ASEAN 経済共同体の設立 貿易の自由化がさらに進む

①であり、その実現のため ASEAN域内での関税の撤廃は大きな進展を見せています

—貿易の自由化ですね。一般的に、輸入品には国内産業保護などのため、関税がかかりますがそれをなくすのですか。

## 2 015年末とされる ASEAN経済共同体 (AEC)の設立により、

どんな変化が出てくるのでしょうか。

「設立で変わるというより、ASEANではすでに経済統合へ向け多くの努力を重ねてきています。設立はひとつの節目であり、さらに統合を深めてゆくためのステップだと思います」

—経済統合の目指すものとはどんなものですか。

「4つの目標が示されています。①単一市場・生産拠点 ②競争力のある経済圏 ③平等な経済発展 ④世界経済への統合——です。このうち、中核に位置付けられる

「そうです。この面では統合に先行して取り組んだ6か国(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)が早くも2010年までに、ほぼすべての品目で域内関税を撤廃しています。他の4か国は若干の猶予が認められていますが、一部例外品目を除き、2018年までに撤廃される予定です」

### それぞれの国の個性を活かし 効率的な経済活動が可能に

「これにより、域内でのモノの輸

送が自由になり、国や地域の特性に応じた分業が、あたかも同じ国の中でのように、可能になったわけですね。多数の労働者が必要な部品の組み立ては賃金の安い所で、あるいは高度な技術を要する作業は技術力のある労働者を集めやすい所で、そして出来上がった製品は輸出する、という具合に。つまり生産工程に応じた最適な場所を選ぶことができる」

「実はそれは、ASEANの国々が多様であるからこそできるのです。工場団地や物流拠点が整備された国もあれば、まだまだ農村に多くの若者がいる国もある」

「今後、鉄道、道路、港湾などのインフラ整備が急がれるのはもちろんですが、さらに国境でのトラックの積み替えを不要したり、通関手続きを簡素化したりするなど、国境を越えての輸送をさらに

円滑化してゆくことが大切です」

生産拠点だけでなく 消費マーケットとしても 重要に

—課題はあるでしょうが、日本など域外の企業が新たな生産拠点を考える際、非常に魅力的な地域が形成されてきているわけですね。ASEANにとっては、そうした投資を受け入れることが経済成長につながる、国民生活の向上につながるのでしょうか。

「そうですね。飛び抜けた富裕層はすでに存在していますが、今後、中間層も増えてきて、日本との所得差は徐々に縮まるはずですね。しかも、日本とは反対に、まだまだ人口が増えます。経済発展に人口増が合わり、巨大な経済圏が形成されるわけです。つまり生産拠点としてだけでなく、モノを購入する消費マーケットとしての重要性も高まるのは間違いありません」

—ところで統合というとEU(欧州連合)を思い起こしますが、違いは。

「ヨーロッパと比べてみると、域内の民族、言語、宗教などが極めて多様であり、所得面では大きな格差もあります。つまり価値観がヨーロッパほど共有されていないということがあります」



ジャカルタ日曜日の歩行者天国

「統合に関して最大の違いは、EUのユーロのような通貨統合をいう考えがないことです。もうひとつ、人の移動の自由については限定的です。つまり、EUでは域内のどの国で働こうと自由ですが、ASEANでは特定の医師やエンジニアなどの専門家と熟練労働者に限定されています」

「これは域内の賃金の差が大きいためです。だれでも自由にしたら、高い賃金の特定の国に集中してしまいます。そうすると、各国の産業構造に大きな影響を与えるでしょう」

### 日本とASEAN諸国は お互いに大切なパートナー

—日本とASEANの貿易はどのくらい行われているのですか。

「輸出と輸入を合わせた貿易額(2014年)では、ASEAN全

「しかし、中国には政治的、社会的な要因によって企業活動が大きな損害を受ける特有のチャイナ・リスクが心配されることや、中国の労働者もかつてのように低賃金ではなくなったという事情が出てきました。そこで、中国への過度な依存はよくないとして、ASEANの存在が再評価されてきたわけです」

—ASEANから日本への期待はどうでしょう。

「もともとASEANの結束は、中国とインドという隣接する超大国への対抗という意識がありました。一国一国ではとても太刀打ちできません」

「各国とも、豊富な

資金をバックにした中国に対し、魅力を感じながらも、中国一辺倒になりたいとは考えていないでしょう。その意味で日本への期待は大きいものがあります。ただ、日本にすべて委ねるという関係にもなりません。バランスをとってゆこうという姿勢だと思います」

—ASEANの国々を一言で言うとは。

「日本にとって本当に大事なパートナーです。ウインウインの関係を築いてゆくことを忘れないようにしたいと思います」



ミャンマーでは伝統的な腰巻(ロンジー)姿の男性も目立つ



通勤客でにぎわうバンコクの高架鉄道BTS



# データから見るASEAN

数字でみる経済の実情と、  
日本との関わり。

DATA

01

## ASEANの 経済概要

### ASEANの経済概要

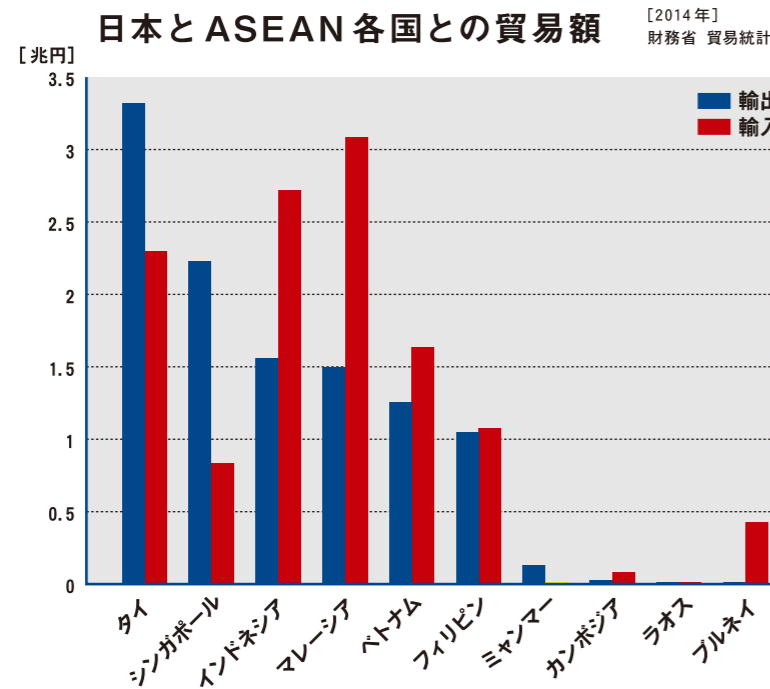
	年平均 経済成長率 (各国通貨ベース%)	名目GDP (10億ドル)		人口 (100万人)	一人当たりGDP (ドル)	
		2010-13	2013		2019見込み	2013
日本	0.8	4,899	5,433	127	38,633	43,504
ASEAN	5.2	2,410	3,605	612	3,939	5,446
シンガポール	4.1	298	369	5	55,182	65,702
ブルネイ	0.9	16	20	0.4	39,659	44,352
マレーシア	5.2	313	536	30	10,457	16,170
タイ	3.1	387	493	68	5,676	7,047
インドネシア	6.2	870	1,231	248	3,680	4,560
フィリピン	5.9	272	517	97	2,791	4,712
ベトナム	5.6	171	281	90	1,902	2,948
ラオス	8.0	11	19	7	1,594	2,473
ミャンマー	7.1	57	112	51	1,113	2,097
カンボジア	7.3	16	26	15	1,018	1,594

IMF, World Economic Outlook

◆ Point ◆ ASEANの中で稼ぎ頭(名目GDP)は2億5000万人近い人口を抱えるインドネシアだ。しかし、1人あたりのGDP額にすると人口の少ないシンガポールがトップとなり、その額は日本をはるかに超えている。

### ◆ Point ◆

輸出先としては3兆3000億円のタイがトップで、鉄鋼や自動車部品、原動機などが輸出された。2兆2000億円のシンガポールが2位で、鉱物性燃料、半導体など電子部品、船舶など。以下、インドネシア、マレーシアの順で、いずれも1兆5000億円前後。一方、輸入では液化天然ガス、石油製品などの取引でマレーシアが3兆1000億円とトップ。2位はやはり液化天然ガス、原油などで2兆7000億円の取引となったインドネシア。3位は2兆3000億円のタイ。なお、ほぼ輸入一方のブルネイ。同国にとっては日本が最大の貿易相手国で、液化天然ガスなどの地下資源を日本が輸入している。



## 日本と ASEAN各国との 貿易額

DATA

04

## ASEAN各国との 人の交流

### ASEAN各国との人の交流 [人]

国名	海外在留の日本人 ※1	日本在留の外国人 ※2	訪日外国人客 ※3	日本人訪問者 ※3
タイ	64,285	43,081	657,570	1,265,307
シンガポール	35,982	2,366	227,962	824,741
ベトナム	13,547	99,865	124,266	647,956
マレーシア	22,056	8,288	249,521	553,106
インドネシア	17,893	30,210	158,739	486,687
フィリピン	18,870	217,585	184,204	463,744
カンボジア	2,270	4,090	—	215,788
ミャンマー	1,330	10,252	—	83,434
ラオス	677	2,556	—	44,877
ブルネイ	165	42	—	4,671

※1 外務省・2014年10月/※2 法務省・2014年12月/※3 日本政府観光局・2014年

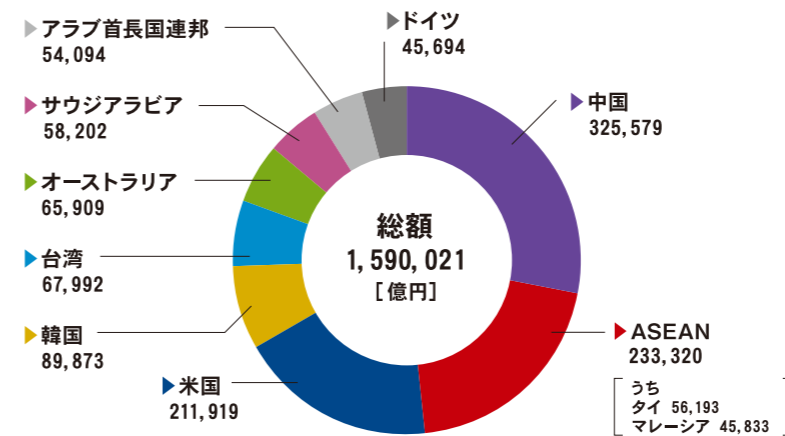
### ◆ Point ◆

海外在留の日本人、訪日外国人客、そして日本人訪問者のいずれでも、タイがトップとなっている。とくに日本人訪問者の数では、タイだけが100万人台に乗っている。日本在留の外国人ではフィリピンがトップ。

## 日本との 貿易相手国

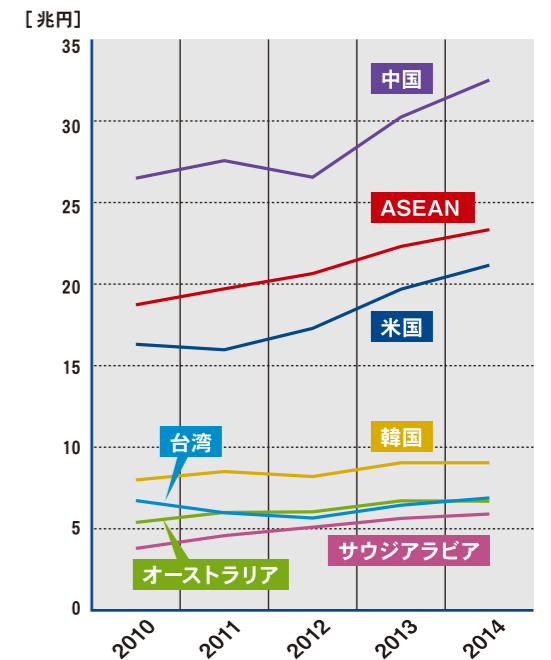
DATA

### 02 2014年の上位国・地域 [輸出入総額] 財務省 貿易統計



### ◆ Point ◆

日本の輸出と輸入を合わせた貿易の総額は2014年に159兆円にのぼる。相手国別では、32兆6000億円の中国が2007年以来、連続してトップとなっている。中国に首位の座を奪われた米国は以後、2位のままで、2014年は21兆2000億円。3位の韓国は9兆円だった。ASEANの10か国を合算すると23兆3000億円となり、米国をも上回る額となっている。



DATA

### 03 主な上位国の推移 [輸出入総額] 財務省 貿易統計



# タイ王国

日本との結びつきが強い国

国民の94%が仏教徒の仏教国で、「微笑みの国」とも。大多数がタイ族で、タイ語を話す。1997年に始まったアジア通貨危機で一時、経済は停滞したが、今では回復。ASEAN諸国の中で日本人が最も多く訪問する国で、2014年は127万人が訪れている。

# インドネシア共和国

リゾート地・バリ島でも有名!

主要な5島を含む1万7000以上の島々からなる。うち9000の島々に2億5000万人が暮らす。大半がマレー系で、88%がイスラム教徒。言語はインドネシア語。バリ島は東南アジア屈指のリゾート島として知られ、日本人観光客も多い。



# ASEANの国々



どんな人々が、どんな言葉をお話しているのか。国によってこれだけ違う社会の姿。  
(各国の民族、言語、宗教については外務省のホームページから)



# マレーシア

多様な文化が共存する多民族国家!

国土はマレー半島とボルネオ島の一部からなり、3000万人の国民の67%がマレー系、25%が中国系、7%がインド系。言語は国語のマレー語のほか中国語、タミール語など。国教はイスラム教。経済を進展させ、2020年までに先進国入りを目指す経済社会開発構想「ビジョン2020」を進めている。首都クアラルンプールは高層ビルの町だが、車で約30分、マレーシア森林研究所に着く。小さな山に登ると、大木と大木つないだ吊橋の「キャノピーウォーク」を楽しむことができる。地上から約30メートルの高さ。揺れる橋から緑の密林を見下ろせば、心も体もリフレッシュ。



# フィリピン共和国

ASEAN 唯一のキリスト教国

11の大きな島を含め7100以上の島々からなる。ASEANでは唯一のキリスト教国。国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%など。民族はマレー系が主体だが、ほかに中国系、スペイン系など。日本が輸入するバナナの90%がフィリピン産。

恵まれた地下資源で国作り

ボルネオ島の北西に位置し、国土は三重県とほぼ同面積。国民の66%がマレー系、10%が中華系となっている。また、67%が国教のイスラム教徒。公用語はマレー語。石油、天然ガスなどの地下資源に恵まれ、安定した経済、高い所得水準を維持している。

# ブルネイ・ダルサラーム国



# カンボジア王国



世界文化遺産の遺跡で有名!

かつての戦乱、内戦を乗り越え、1993年に選挙で新政府を樹立。2004年から4年間は経済成長が10%を超えた。国民の90%がクメール人とされ、言語はカンボジア語。一部の少数民族を除き仏教徒。9世紀にさかのぼるアンコール遺跡でも知られる。

# ベトナム社会主義共和国



自然が残るASEAN 唯一の内陸国

国土は日本の本州ほどの広さで、その70%が高原や山岳地帯。ASEAN唯一の内陸国。国民の約半数がラオ族。ラオス語を話し、宗教は仏教。豊富な水力を利用し、近隣諸国に電力を輸出していることで知られる。「インドシナ半島のバッテリー」の異名も。

# ラオス人民民主共和国



# シンガポール共和国

アジア屈指の国際都市

東京23区と同程度の面積だが、経済活動を強力に推進。世界銀行の調査でビジネスのしやすさ第1位にランクされた。国民の74%が中華系で、ほかにマレー系13%など。国語のマレー語のほか、英語、中国語なども。宗教は仏教、イスラム教、キリスト教など。



民政移管で日系企業進出目立つ



# ミャンマー連邦共和国

国民の90%が仏教徒。1988年に社会主義政権が崩壊したが、国軍が政権を掌握し、その後、長く軍政が続いた。2011年3月に民政移管、これを機に日本などからも企業の進出が目立ち始めている。首都はネピドー。2006年まで首都のヤンゴンは今も最大の都市。民間の日本語学校で日本語に夢を託す若者も多い。その一つ、「東京スター日本語学校」には約50人の若者が通う。ムーヤさん(23)は栃木県の日本語学校で学んだ後、デザインの専門学校に通う予定だ。「花のデザインを勉強して、働きたいです」。黒板の前でムーヤさんが目を輝かせた。

